

学校の共通目標

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</li> <li>◦生徒一人ひとりの基礎・基本の定着及び学力向上</li> <li>◦学習意欲の向上と学習習慣の確立</li> <li>◦学び合活動を通して自己有用感を高める授業展開の工夫</li> <li>◦新宿区版 GIGA スクール構想を基に、生徒一人ひとりに合った学び方を見つける ICT 機器の活用</li> </ul>	中間評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦学力調査の結果を受け社会科を除き、全体的に「知識理解」に関する観点が他の観点に比べ低いことが分かった。</li> <li>◦主体的・対話的な学習への取組について各教科、現状を踏まえ工夫をしながら実践を続ける。</li> <li>◦生徒の「自己有用感」については学習意欲を向上させるためにも必要であるため、学び合活動の充実を図る。</li> <li>◦ICT 機器を活用し、生徒一人ひとりに合った学習を展開する。</li> </ul>	最終評価
		<ul style="list-style-type: none"> <li>◦授業規律の徹底と定着、発展的な指導技術の習得、協働学習の充実</li> <li>◦授業中の個別指導、反復学習や少人数・習熟度別指導、放課後学習教室によるきめ細やかな指導の充実</li> <li>◦生徒の意欲を高める評価や自学自習の意欲を促す課題、取り組みやすい課題の提示</li> <li>◦ICT 機器環境の充実</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◦授業規律を保持して、授業が行われており、教科担当は学習の深まりを考え、基礎基本の充実や、発展的な学習への取組など指導の充実を図っている。</li> <li>◦「知識理解」の向上のため反復学習や少人数・習熟度別指導等によるきめ細やかな指導を継続する。</li> </ul>	
環境作り					

教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p><b>調</b> 令和2年度新宿区学力調査結果（平均との比較）</p> <p>現2年 区 関：+2.8 話：-2.0 書：+5.3 読：+5.2 知：+4.8            全国 関：+3.8 話：-2.4 書：+8.8 読：+8.4 知：+2.8</p> <p>現3年 区 関：+2.3 話：+7.0 書：+0.6 読：+5.7 知：+3.5            全国 関：+5.2 話：+8.9 書：+4.5 読：+8.6 知：+2.0</p> <p>上記結果より、現3学年は、どの観点においても区、全国平均値を上回る結果となり、良好な状況である。今後も継続して導入や発展教材を工夫していきたい。現2学年は「話す・聞く」観点で区より2ポイント、全国より2.4ポイント下回る結果となった。今後の課題として「話す・聞く力」をより強化していく。</p>	<p>① どの学年も基礎学力の定着・維持に努める必要がある。</p> <p>② どの学年も「関心、意欲」をさらに高めるために単元への導入や発展教材などを工夫する必要がある。</p> <p>③ 第2学年では、昨年度「話す、聞く」活動が少なかったため、十分に力を伸ばすことができなかった。「話す、聞く力」を高める必要がある。</p>	<p>① 漢字練習への取り組みやデジタルドリルの使用を授業内・家庭学習で継続して行うことで、基礎学力を定着・維持させる。</p> <p>② ICT機器の活用による導入の工夫を行うとともに、めりはりのある授業展開を行う。さらに発展教材を使い、より深まりのある学習へと導く。</p> <p>③ 第2学年では、討論やパネルディスカッション、スピーチなど話す機会を多く取り入れる。ICT機器を使用し、自身のスピーチを記録して振り返る等工夫して行う。</p>	<p><b>調</b> 令和3年度新宿区学力定着度調査結果（平均との比較）</p> <p>区 関：-1.3、話：+1.5、書：+0.1、読：+6.2、知：+2.7            全国 関：+2.9、話：+4.1、書：+6.2、読：+10.9、知：+7.5</p> <p>上記結果より（3年）            区の「関心・意欲・態度」以外の観点において、区・全国平均を上回る結果となったが、「関心・意欲・態度」の観点においては、区の平均を1.3ポイント下回る結果となった。改善のための取組②に、より一層力を入れて、取り組んでいく必要がある。改善のための取組③での成果として、昨年度の新宿区学力定着度調査の結果と比べ「話す・聞く」の観点が向上している。しかし「書く」観点においては、区の平均とほとんど差がない。今後は自分の考えや意見をまとめて書く力の基礎力をさらに高めることを目指して、意見を書く学習を多く取り入れていきたい。</p>	
社会	<p><b>調</b> 令和2年度新宿区学力調査結果（平均との比較）</p> <p>現2年 区 関：+5.6 思：+6.3 資：+2.2 知：+5.2            全国 関：+8.1 思：+9.9 資：+6.9 知：+8.1</p> <p>現3年 区 関：+8.7 思：+5.5 資：+6.8 知：+7.1            全国 関：+11.3 思：+9.7 資：+10.3 知：+10.1</p> <p>上記結果より現2学年、3学年ともに区、全国平均値を上回り良好な状況である。各観点を比較すると、現2学年、3学年は共に、知識の定着のための単語テストや思考力・判断力・表現力を伸ばすための文章やレポートの書き方の指導に取り組んできた成果といえる。</p>	<p>① 主体的に学習に取り組む態度を高める授業の目標設定や授業展開、発問、資料等教材提示の工夫が必要である。</p> <p>② 下位生徒の基礎学力の向上を図ることが課題である。</p> <p>③ 授業により得た知識を基にした、思考力・判断力・表現力をさらに育成することが課題である。</p>	<p>① 授業ごとの振り返りを行い、何が分かり、何ができたのかを把握させ、次回の授業への意欲を高める声掛けや指導を行う。また、小テストを定期的に行うことや、デジタルドリルを活用し、基礎的な知識・理解、学習習慣の定着を目指す。</p> <p>② 各種統計や地図、年表からの読み取り、表現し授業の中で共有する形態を定着させる。また ICT 機器を利用し、資料の提示、映像を視聴するなど、視聴覚資料を用いて、深い理解につなげる。</p> <p>③ 生徒間での学び合い（グループワーク・ペアワークなど）により生徒同士が主体的に、対話を通して、課題を追究する活動を実践する。また ICT 機器を利用し、生徒一人一人が学んだことをまとめ発表する機会を通し、表現力の育成を行う。</p>	<p><b>調</b> 令和3年度新宿区学力定着度調査結果（平均との比較）</p> <p>区 関：+5.3、思：+4.4、資：+5.3、知：+7.1            全国 関：+5.7、思：+5.4、資：+3.4、知：+5.9</p> <p>上記結果より（3年）            全ての項目において、区・全国平均を上回る結果であった。受験もあり、学習に意欲的に取り組むようになったことも考えられるが、改善のための取組①②が習慣化された効果が表れていると考えられる。ただし、デジタルドリルの使用頻度は生徒によって大きく差がでている。③についてはコロナ禍のため、機会は多くはないが、話し合いや学び合い活動を行うことで、理解が深まっている様子がみられる。今後も根拠をもとに自分の意見を文章でまとめ、発表する機会を設けていき、表現力の育成を図る。</p>	

数学	<p>調 令和2年度新宿区学力調査結果（平均との比較）</p> <p>現2年 区 関：+4.0 見：+4.2 技：+2.1 知：+5.2        全国 関：+12.4 見：+13.2 技：+9.3 知：+8.8</p> <p>現3年 区 関：+3.4 見：+2.8 技：-2.5 知：-0.2        全国 関：+11.1 見：+10.9 技：+3.5 知：+4.1</p> <p>上記結果より、現2学年は全ての観点において、区、全国の平均値を上回る結果であったため、良好な結果であると考えられる。</p> <p>現3学年は見方・考え方の観点においては、区、全国の平均を上回る結果となったが、技能・知識理解の観点で区より2.5ポイント、0.2ポイント低い結果となってしまった。</p> <p>現3学年は、上位と下位の差が大きいため、下位の基礎学力の向上に課題が見られる。</p>	<p>① 現3学年は、特に少人数クラスの基礎定着クラスにおいて、数学的知識・技能の定着・向上させる必要がある。</p> <p>② 引き続き、基礎学力の定着を重点課題とし、つまずきを知る機会を増やし、明確にしていく必要がある。</p>	<p>① 基礎定着クラスには教科書の基本の問題や問題集、デジタルドリルを活用し、理解不足が認められる生徒には補習を行う。これらによって分かった課題に取り組むことを通して、家庭学習の習慣化にもつなげていく。解法の定着を徹底し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>② 定期的に小テストを実施し、学力の定着を細かく確認し、学習方法を改善させ、個に応じた学力の向上を図る。</p>	<p>調 令和3年度新宿区学力定着度調査結果（平均との比較）</p> <p>区 関：+4.6 見：+3.6 技：-1.4 知：0.0        全国 関：+10.5 見：+9.2 技：+3.5 知：+1.6</p> <p>上記結果より（3年生）</p> <p>区の「技能」の観点以外では区・全国の平均値を上回る結果であったが、「技能」の観点において、区の平均を1.4ポイント下回る結果となった。また、領域別では、関数分野の正答率が低く、資料の活用分野は区・全国の平均値を下回っている。</p> <p>2年次の新宿区学力定着度調査と比較しても、「技能」と「知識理解」の観点が大幅に下がっていることがわかる。</p> <p>左記の改善のための取組としてあげた、基礎学力の向上と解法の定着の徹底のため、継続して小テストを実施し、学習方法の改善を図る。</p>	
理科	<p>調 令和2年度新宿区学力定着結果：平均点との比較</p> <p>現2年 区 関：+3.5 考：+3.7 技：+1.4 知：+8.2        全国 関：+7.2 考：+8.1 技：-0.2 知：+9.8</p> <p>現3年 区 関：+9.1 考：+6.9 技：-4.9 知：+7.4        全国 関：+14.4 考：+11.1 技：-3.7 知：+9.0</p> <p>第2学年については、技能は区平均点を上回り、全国平均とほぼ同等で、その他の観点については、区、全国平均点ともに上回っている。第3学年については、技能の観点を除き、区、全国平均点ともに上回っている。全体的に見ると、概ね良好である。しかし、技能に関して、第2学年は更なる向上が期待され、第3学年でも向上できる観点である。</p>	<p>① 良好な現在の学力を維持するために、知識の定着を図る。</p> <p>② 全国の平均値を下回っているため、実験・観察の技能を向上させる。</p> <p>③ 良好な現在の学力を維持するため、思考力・判断力・表現力を向上させる。</p>	<p>① 知識の定着を図るために、確認テストや探究ノートの活用、デジタルドリルの活用、また問題集を使った家庭での反復練習を進める。</p> <p>② 実験内容を充実させるとともに、実験操作を丁寧に指導し、確認させることで技能の向上を図る。</p> <p>③ 思考力・判断力・表現力を向上させるために、グループ活動による学び合いの場や、実験データのまとめとその分析をする実習を充実させる。</p>	<p>調 令和3年度区学力調査結果（平均との比較）</p> <p>区 関：+5.5 見：+5.8 技：+1.9 知：+3.0        全国 関：+3.0 見：+4.7 技：-2.2 知：-2.5</p> <p>上記結果より（3年生）</p> <p>全国の「技能」「知識理解」以外では区・全国の平均値を上回る結果であったが、「技能」が-2.2ポイント「知識技能」が-2.5ポイント下回る結果となった。また、領域別では2年生で学ぶ電流と磁界分野に課題があることが分かる。総復習問題を通して、この分野の学習の定着を促していく。</p> <p>「技能」の観点の向上を図るために、実験・観察を通して自ら考え、自分の考えを伝え合う学び合い活動によって学習を深めていく。</p> <p>「知識理解」については継続して、確認テストや探究ノートを活用することで知識の定着を図る。</p>	
英語	<p>調 令和2年度新宿区学力定着結果：平均点との比較</p> <p>現2年 区 関：+4.1 表：+4.1 理：+2.5 知：+4.3        全国 関：+10.7 表：+11.4 理：+12.6 知：+12.6</p> <p>現3年 区 関：+1.7 表：+4.2 理：+1.7 知：+0.6        全国 関：+11.6 表：+15.0 理：+12.6 知：+9.6</p> <p>現2学年、現3学年ともに、区、全国の平均正答率を上回っており新宿区学力定着度調査の結果はおおむね良好であった。とくに3年は「表現」の分野で全国平均を大きく上回った。コロナの影響で授業中「書く」時間が増えたことが一因と考えられる。一方で、「理解」に関しては、区平均を上回っているものの、「表現」のように大きくはない。</p>	<p>① 説明的な文、会話文の両方の読み取りの力を向上させる。</p> <p>② 基本的文法・語彙の知識を定着させる。</p> <p>③ ライティングスキルを向上させる。</p>	<p>① 帯活動で読み取りの課題を使い、速度に慣れさせる。また、単元ごとに長文を課題にし、少し長い文を集中して読む力をつける。</p> <p>② ワークブックやデジタルドリルを活用し、基本的な文法について繰り返し問題を解かせる。必要な生徒には補習を行う。</p> <p>③ 単元ごとに授業で扱うスピーチ原稿の指導や週に1回程度3行日記を書かせるなどして、文ポイや語彙の間違いと正答に気づく機会を増やす。</p>	<p>調 令和3年度区学力調査結果（平均との比較）</p> <p>区 関：+1.7 表：+1.0 理：+2.3 知：-0.2        全国 関：+10.7 表：+11.2 理：+9.7 知：+7.4</p> <p>上記結果より（3年生）</p> <p>「知識理解」の観点以外では全国平均を上回る結果となったが、区平均と比較すると、「言語や文化」についての知識・理解の観点で0.2ポイント下回っている。領域別で見ると、内容の言語活動（スキル）において「書くこと」の「語形・語法・語彙の知識・理解」に関する問題の正答率が低かった。今後も継続して、改善のための取組②を充実させ文構造や語法、文法の理解を深め、帯活動などで語彙指導を入れ、知識の向上を目指す。</p>	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。